

## プロップ・トピックス

### 曾我部教子さんの、海遊館における理科スクール 開催の決定と、準備活動の開始について

コンピュータを媒体として障害を持つ人達の就労促進を支援するプロップ・ステーションでは、前号のシンポジウム報告でご紹介した曾我部教子さんの復職に伴い、教壇復帰への手立てを共に考えるべく活動しておりますが、この度「海遊館」（大阪市港区）における曾我部さんの「理科スクール」の開催が決定しましたので、お知らせします。

内容 生態観察コース

テーマ「仲間のふやしかた」（案）  
（様々な生物の繁殖についての授業です）

主催 海遊館

プロップ・ステーション

時期 今秋の開催に向けて、打ち合せ会を継続中です。

私達は曾我部さんの教壇復帰に下記の事柄の必要性を感じ、「海遊館」のご協力をお願いいたしましたところ、ご快諾を戴き実現の運びとなったものです。

1. 適切な場所でスクールを開催することにより、曾我部さんの体力の向上と復帰に際しての教師としての感覚を磨く。

2. 兵庫県教育委員会および尼崎市教育委員会ならびに尼崎市立若草中学校等関係方面の方々に、授業実施の可能性、授業形態の方策などの提言を行う。

3. 曾我部さんの教師としての能力が最大限発揮できるよう、コンピュータを利用した授業のためのプリント制作や、マルチメディアを活用した理科授業の実施などへ向けてプロジェクトを組み、重度障害を持つ人達のノーマライゼーションに資するノウハウを蓄積する。

上記の目的に添ってプロップ・ステーションでは第1回の打ち合せを、去る4月10日海遊館にて行いました。

その結果、下記のような体制を組んで、よりよいスクールの実施へむけ活動していく事になりました。

1. 授業の内容は、曾我部さんと支援の会の（理科の）先生方が主体となって決める。
2. プロップは海遊館との窓口として、全体のコーディネイト、テキストの作成サポート、スクール当日のプレゼンテーションツール（コンピュータ関連）の制作を担当する。
3. 曾我部さんにコンピュータ及びサポート機器の貸出しをし、プロップのスタッフが訪問指導を行う。（貸出した機器を、曾我部さんが通う尼崎市福祉・教育総合センターに設置する）  
曾我部さんのコンピュータ研修は、プロップ役員で、彼女と同じ頸髄損傷の障害を持つ坂上正司が指導の中心となり、プロップのエンジニア達が協力する形で進める。
4. 関係者の打ち合せ会は、最低毎月1回、海遊館にて行う。

以上が、曾我部教子さんの理科スクールとプロップの準備活動の内容です。

何卒、このスクールの成功へ向け、皆様の温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

本件に関するお問い合わせは  
プロップ・ステーション  
TEL 06-881-0041





以下にプロップネットに掲載された曾我部さんを支援する会の井殿恵二さんの文章を紹介しします。スクールの主旨が良くわかる内容になっています。

\*\*\*\*\*

5月7日 (土)

「曾我部さん、教壇復帰を目指して！」  
海遊館での授業づくり検討・準備会 (第2回)

竹中さん、榊原さん、お世話になりました。いよいよ、本論にかかわった内容になって大変面白く、有意義な時間をもてたと喜んでます。

おそらく、全体の報告は、榊原さんからなされるでしょうから、私からは気がついた点をいくつか断片的になることをお許しいただいて報告させていただきます。

### 1) スクールと授業について

海遊館は学校と違うのだから、学校でできないようなことを、自由な雰囲気の中で子どもたちに、海遊館ならではのいろんな体験をさせたい。こんな願いで実施されているのが、スクールだと理解しています。したがって、スクールでは、教えることよりも体験を中心に進めようとなさっているとされます。

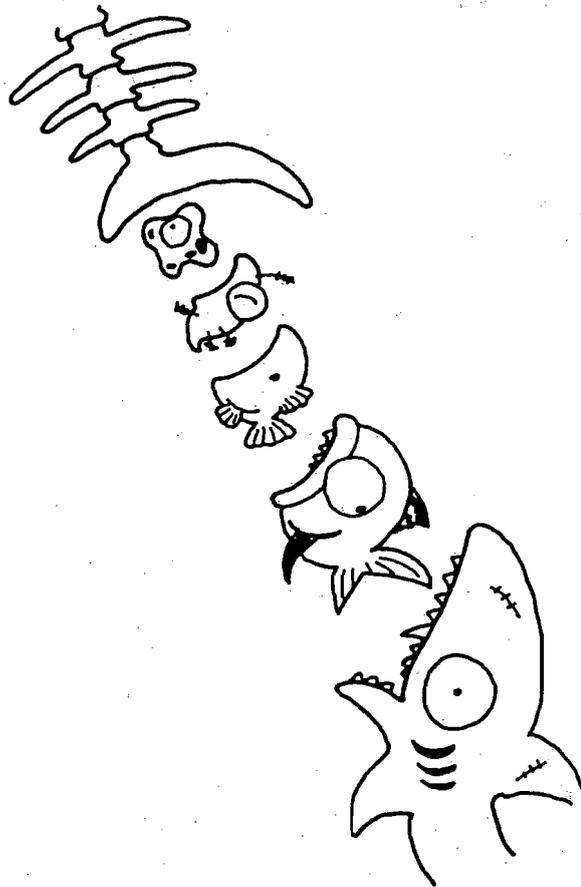
私たち学校に勤務するものにとって、ある意味では反省させられる点があります。多くの学校の多くの授業、いや、ほとんどの学校のほとんどの授業が (もちろん、私たちの授業も含めてですが、) 子どもたちが満足できるまで (いや少しは満足できるまで) 実験したり観察したりさせていないという事実です。時間だとか、進度だとか設備だとかいろいろ理由はありますが、納得できるものではありません。

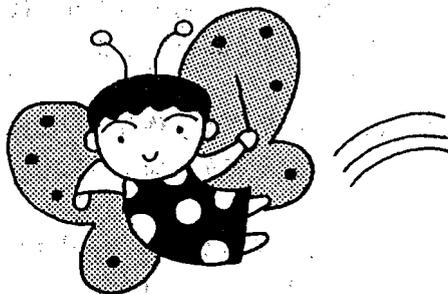
今回、曾我部さんから「授業プラン」が提案されたわけですが、そのプランをめぐってスクール担当の海遊館と私たち授業プランを作ってきたものとのあいだに違いが出てきました。

1. (学校の) 授業のようで堅苦しい感じだ。
2. 使われている言葉が暗いイメージでよくない。  
(死にやすい、滅びないのは、死亡率、喰う喰われるなど)
3. (質問に答えるように) 考えるより、観察活動を中心にしたほうがいいのではないか。

実は、この違いは授業プラン作りに当たった私たちの間にもあり、海遊館から帰ったあと、論議を続けました。

1,2はそのようなものではないが、受け手の気持ちの持ち方が大切であるから、再度考えて良いものを作ることにします。しかし、3は考えることが中心になるのは授業プランの核心であり変更しません。おそらく、堅苦しい感じになることを心配しての考えだと思います。教えることが多くて参加している子どもたちが息苦しくなるのではないかと心配だと思います。その心配もよくわかります。しかし、譲れない理由があるのです。





その1:「観察しましょう!」だけで、分かるのですか?

あなたは、海遊館の水槽を観察してきて何がわかりましたか?もし、海遊館の出口でそんなインタビューをしたら、どんな答えが返ってくるでしょう。「いろんないきものがいた」(もちろん、ジンベイザメ、ナポレオンフィッシュ、イルカなどの名前が出てくるかもしれませんが)以上のものがあるのでしょうか。もちろん、専門家や趣味の人はいろいろあるでしょうね。しかし、ほとんどの人達にとって、もう一度見て確かめてみたい程のものではないと思います。もちろん、きれいだからもう一度見たくて来る人もいますでしょう。これも大切なことだと思いますが、海遊館に何度通ってきてくれるでしょう。珍しいものが入れば来てくれるかもしれませんが、そうそう、何度も海遊館に来てくれる人はいないでしょう。ほとんどの人は、一度来て見たら終わりです。館内を歩いている人の速さを見てください。はじめの、屋上の淡水魚やイルカのいる水槽あたりは一生懸命覗いています。しかし、底に行くにしたがって、人もまばらになり、歩くのも速くなります。

海遊館は、出口から出てきた人達にどんな気持ちになってほしいのでしょうか。

授業プランを検討してきた私たちとしては、スクールが終わったときに、「ああ、面白かった。ずいぶん、苦労して生き続けているんだな。いろいろな工夫をしてるなあ」と、思っしてほしいのです。

その2:そこで、どうしても、生きることについての問題提起をしたくなります

それが、いきものを見る「視点」なのです。その視点を与えなければ、目に映っていても見えていないのです。今回のプランの「繁殖」はいきものを見る視点の一つです。「すべて、動物は食べ、うんちをして、子孫を残します」食べない動物はいるのでしょうか。ウンチをしない動物はいるのでしょうか。お腹の赤ちゃんは動物でしょうか。ウンチをするのでしょうか。

すると、サメを見たら、何を食べて生きているのか?どんなうんちをするのか。赤ちゃんはどこに入っているのかな。カツオの仲間はどうして真ん中あたりでぐるぐる回っているのだろう?と疑問がいっぱい出てくるのです。子孫を残さないいきものはいるのでしょうか。

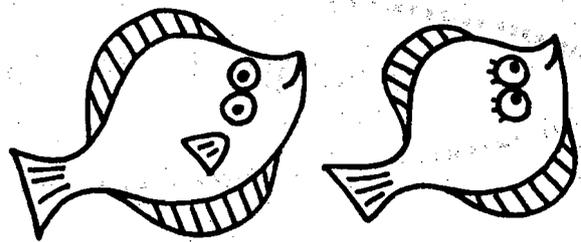
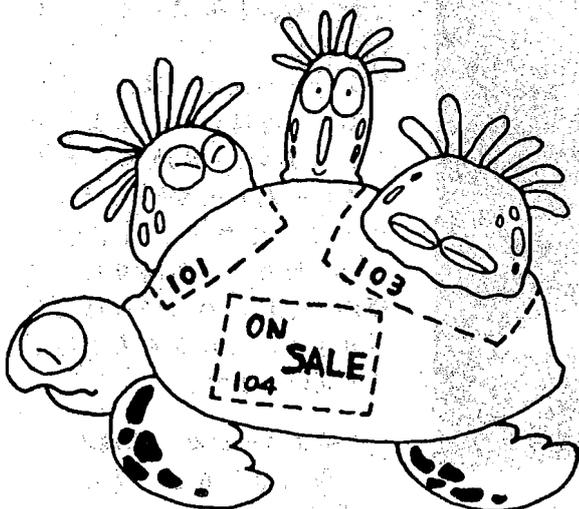
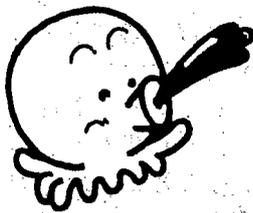
海遊館の水槽では、飼育のために餌を与えて「喰う、喰われる」関係が出ないようにしてあるそうです。維持管理の面から仕方ないことなのかもしれません。しかし、多くの種類の魚を一緒の水槽にいておくことの意味はなんでしょう。ハンティングをしない肉食動物って、魅力は半減してしまいます。獲物を狙う姿ほど輝いている瞬間はないと思うのですが...

その3:例外のない法則はない。法則を作るから、例外が分かるのだ

知りたいのは、個々の特徴ではありません。いきもの全体を見る視点です。もちろん、自分もいきものとして見えてきます。大きい卵を産むいきものは、卵の数が少ない。え?ほんと?鮭は結構卵が大きいのに数は多い。比較の問題でしょうか?鮭は、産卵を終えると死んでしまいます。このルールからはみ出たリスクを鮭は背負っているのではないだろうか。鮭の卵の総重量は親の体重の18%にも及びます。全体が見えるから、個々の特徴が分かるのではないのでしょうか。

私は、スクールに参加する子供も学校で授業を受ける子供も、認識は同じように進むと思います。それを教える教師の学び方も同じだと思います。例外からは教えられない。仮説であっていい。とにかく、ただ見るのではなく、法則を通してものを見せていく。当てはまらないことがあれば、仮説を修正する。それが、科学の進んできた道ではないのでしょうか。

私は、基本的には、海遊館のスクールも私たちの目指している授業も同じ土俵にのるものだと考えています。しかし、今、違いが出て当然だと思います。まずは、曾我部さんの授業がスクールで実施できることだと思います。次に、その授業について、今までスクールを作ってきた海遊館と授業プランを作ってきた私たちとの間で事実に基づいて論議すれば、きっと新しいものが産まれると思います。私たち、曾我部さんの授業をサポートしようとしている者にとっても意義はそこにあると思います。楽しみです。



## 2) もう一つの大きな課題

これは、曾我部さんの教壇復帰に向けての取り組みだということです。海遊館も、プロップステーションも協力をして下さっているのは、このためだと思います。先ほどの授業の内容のことは、私たち教師仲間の専門分野であるし、私たちが解決できることでもあります。ただ、長々と書きましたのは、曾我部さんが障害をもった教師だからといって、決して妥協したレベルの低い授業をしないということです。私たちは現在出来る最もレベルの高い科学をやさしく教える授業を指向しているのです。この姿勢は、今までの2度の授業でも同じです。しかし、今回のスクールでの授業は、今までの授業と異なっていないではありません。それは、出来る限り曾我部さん一人で授業を進める工夫です。おそらく、曾我部さんにとっては辛い取り組みになるだろうと思います。

①プリントを配ること。(これは、簡単な。)

②写真や図を提示すること。そこを差し示すこと。(指差す代わりにどうする?)

③ビデオデッキを操作すること。

④自分のイメージにあった図を描くこと。

⑤授業中、どちらを向くか。どこに位置するか。(移動すること)

などなど、いろいろ考え克服しなくてはなりません。不便を克服する工夫は、大先輩たちに多くを学ぶ事になるのではないのでしょうか。プロップの皆さんの支援をいただく必要があるだろうと思います。プロップの豊富な人材と才能に期待しています。

すぐに、すべてを一人で進める授業が出来なくても、たとえ一つでも前より進んだ授業になってほしいと思います。

1993年5月9日

曾我部さんを支援する会：井殿恵二

(その実体は、日々の授業に苦しんでいる教師です。)

# 快調! 98セミナー!!

プロップ・コンピュータセミナー-PHASE2も3月から順調にスケジュールがこなされています。PC-9801コースも軌道にのり、充実してきた今日この頃。今回は、98セミナーの講師ボランティアさん、受講生のみなさんをご紹介します。

☆コンピューターを教えていただけるボランティアさんは、現在も随時募集中ですので、御興味のある方はプロップ・ステーション事務局 (TEL/FAX06-881-0041) までご連絡くださ〜い!  
楽しい出合いを待ってます!!

まずは、ボランティアさんからです。。。

## 1人目

はじめまして。私は「シルバーアロワナ」と申します。河内長野に住んでいます。まだ生まれて2年半ですが、身長70cm、バスト20cm、ウエスト24cm、ヒップ15cmのセクシーな体型です。体重はまだ計ったことはないんです。

さて、今回なぜこんな風にペンを取ったかと申しますと、私が飼っている人間「木地本」が98セミナーにて皆さんの邪魔をしているらしい、という噂を聞いたからなのです。本誌に載せる文を書いてください、という依頼も今日初めて知ったという次第です。(実はメ切をとっくに過ぎている。)

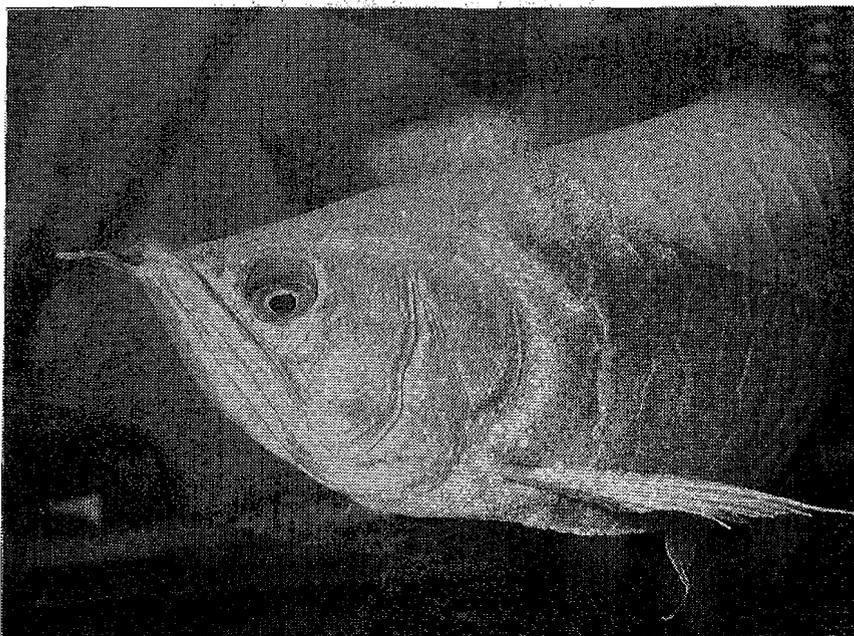
私は「Office DD」という小さな会社を営んでいます。まだ法人化もしていない吹けば飛んでく

ような会社です。「ポリプテルス」や「オキシドラス」など魚の社員はたくさんいますが、「木地本」は唯一の人間の社員です。仕事内容はと申しますと、パソコン導入の支援、導入後の指導・教育などをメインとしております。ただ小さい所なので大手への仕事ではなく、個人や個人商店などがほとんどであります。「木地本」は、熱帯魚雑誌やパソコン雑誌の記事も書いており、最近はそのちらの方が忙しくなってきたようです。またジャストシステム公認インストラクターであり、一太郎のことなどでわからないことがあれば聞いてやってください。彼は不勉強ですからきっとわからないと思いますが、ジャストシステムインストラクターセンターという強力なバックがありますので、少し時間をいただければ回答できるのでは?という感じです。

この98セミナーに参加して皆さんがとても暖かく、障害者の方からも教えていただくことが多くどちらが生徒だかわからん、と彼はつくづく申しています。

まわりの人からは、「きじやん」と呼ばれているようです。「おい、木地本」とか「きじやん」とか呼んで寝てやってください。「お手」「おかわり」「お座り」「お預け」ぐらいのしつけはしてあります。これからもよろしくお願いします。

\*超ユニークな 木地本  
昌弥 (きじもと まさや)  
氏です



[私、シルバーアロワナです]

## ^^ 2人目 ^^ (^^)

名前: プチトマトさん (ハンドルネーム)  
参加種別: 受講生 & ボランティア

MS-DOSの基本操作からユーティリティのFD、そしてお馴染みの一太郎・花子と無事通過し、いよいよ今月からメイン・メニューのCADに突入しました。MACの初代受講生の一人であった私は、IllustratorやPhotoShopなどコンピュータが導く不思議な世界に毎回毎回目を見張り、不謹慎にも学ぶと言うより、ゲーム感覚の楽しみながらの受講でした。ところが、一転して今度は禅ゾーンに紛れ込んだかのように無駄口ひとつきくでもなし、ただひたすら画面とにらめっこの真剣な面もちの顔・顔・顔・顔……。無理もない、MS-DOSでワイワイガヤガヤ楽しんでいる人がいるとしたら、これは余ほどの天才かはたまた紙一重の方でしょう。とにもかくにも無事にCADコースにたどり着きました。

アプリケーションソフトのDYNA・CADは操作が非常に簡単で判り易く正に初心者にとってつけのソフトだと思います。CADがなんたる物かよく理解出来ていない人でも抵抗なく入っていきそうです。

このコースでは微力ながら私もお手伝いをさせて戴く事になりました。横に座っていますと受講生の方の熱意がひしひしと伝わって来、私自身忘れていた何かを呼び覚ましてくれるようで、決して生半かな知識ではなく本格的にCADの本質を見極めて戴きたいと切に願わずにはおれません。

\* 聴力障害をもつプチトマトさん。  
プロップネットで、セミナーで大活躍です!

## ^^ 3人目 ^^ (^^)

名前: 正井 正巳 (まさい まさみ) さん  
所属: 大阪ガス

もっともなじみ深い機種である98セミナーが関係スタッフの努力により、又NECさん等のご理解により、開講されたことはほんとによかった。

PRの浸透につれ、又専門コースに入ったこともあって受講者、見学者も増えさらに相談も相次いでおり対応にも熱がこもって、活況を呈してきました。

私自身、障害者の立場を考える良い機会であるし、何よりも障害者の方と知り会えたことはより理解を深めることになった。

雇用に戻りみる企業が多いけれど、障害者用周辺機器の開発も進んできた。能力さえつけば企業に自信を示す良い機会だ。情報網をふるに活して支援活動を展開すれば、理解も深まると思う。

## &gt;&gt;セミナーの運営についての提言&lt;&lt;

まだスタートして間もないので未熟な面も多いが、職業的自立をめざす障害者にとって1回/週2時間程度のセミナーではたしてマスターできるだろうかと思う。専門コースにいくほど基礎の積み重ねが大切だと思う。そこで、

1. 月に1回くらいは休日を利用したセミナーを、半日程度かけてできないものか  
[場所の確保が困難かも知れないけど]
2. セミナーのステップ毎のフォローが大切  
[知らないまま進むことのないように]
3. 1回/週のセミナーを補充するものとしてパソコン通信 (PROPNET) による補助教育システムの構築の取り組み  
受講生のみなさん、頑張ってください。



\* ネットでは「せんぼくろまん」さん。  
発送作業なども手伝って下さる温厚で、日頃は無口なおじ様

<<98セミナーの様子>>

この辺で受講生の方の紹介です

受講生 1人目 \* \_ \*

名前: 岩宮 誠 (いわみや まこと) さん

勤務先: ワープロハウス

パソコン歴: 8年 (といっても、もっぱら「98」にワープロソフトを入れて触っていただけ)

プロップのセミナーにお世話になり始めたのは、かの有名(?)な「京愛」(歯の浮くような芸名ですネ)さんが私の幼なじみで、彼から「お前もワープロの仕事してるなら、ちょっとは勉強してきたら?」、「そやなあ」という会話がきっかけでした。パソコン歴8年と言っても、「MS-DOS」の「M」が辛うじてわかる程度でした。

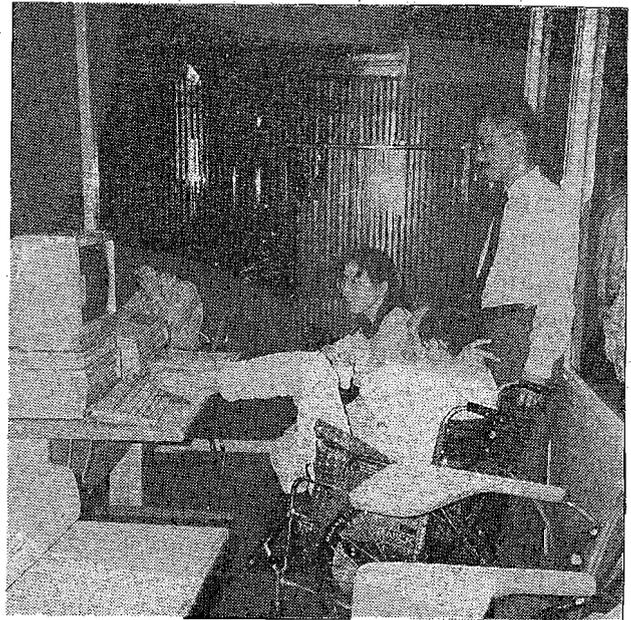
仕事からデータベースの概念などを学べたらと思ひ、ついでに触るのももったいないと思っていた「マウス」なるものにも対面したいと思っておりました。「マウス」=「CAD」などと思っていた私には良い勉強になりそうです。

このセミナーを受けたからと言って、すぐに就労できるなどとは、どなたも思っておられないと思いますが、こういった「OA関係」は身体にハンディのある私たちにとって、社会参加できる可能性のある分野であることは疑いのないところだと思ひます。

たとえ専門的な技術は身に付けられなくても、ボランティアの方々と出会い、そこからいろいろなコミュニケーションの輪が広がり、またボランティアの方々にも私たちのことを知って理解して戴ければ、このセミナーはその役目を果たしたと言ってもよいのではないのでしょうか?

セミナーの更なる充実と発展をお祈りすると共に、履修終了後も何等かの形でお手伝いできることがあればと思っている次第です。

\*礼儀正しく、その正しさが「彼女」のできない原因では!? ジョークもいける、愉快的な岩宮さん。



受講生 2人目 \* \_ \* (#\_#)

名前: 木野内 孝史 (きのうち たかし) さん

勤務先: ワープロハウス

感想: 初めて、セミナーに参加するようになって、今まで詳しくわからなかったパソコンのことが少しずつ分かるようになりました。説明もわかりやすくとてもいいです。

最初は、文字の打ち方や一太郎のシステムのコピーを何回も失敗しましたが、今では上手にできるようになりました。

まだまだ組み込みの方法など、いろいろ勉強することがたくさんありますが、がんばっていきます。これから、他のソフトも勉強して、将来何かの役に立てるようにがんばります。

\*介助の方と通っておられるC.P.の青年です。

【PC-9801コース 7,8月の予定】

見学随時受付中! (日程など変更になる事があります。

予め、電話でご確認ください)

- 開催日; 毎週金曜日 PM 6:30~PM 8:45 (但し、PM 6:00から準備)
- 場 所; NEC関西支社2Fセミナー室

日	セミナーの内容
7月 9日(金)	3D-CG講習(DYNA PERS 1/8)
7月16日(金)	3D-CG講習(DYNA PERS 2/8)
7月23日(金)	3D-CG講習(DYNA PERS 3/8)
7月30日(金)	3D-CG講習(DYNA PERS 4/8)
8月 6日(金)	3D-CG講習(DYNA PERS 5/8)
8月13日(金)	3D-CG講習(DYNA PERS 6/8)
8月20日(金)	3D-CG講習(DYNA PERS 7/8)
8月27日(金)	3D-CG講習(DYNA PERS 8/8)



受講生 3人目 \* \_ \* (#\_#) \* \_ \*

名前: 寺本 久美子 (てらもと くみこ) さん

私がプロップ・ステーションを知ったのは、主人(後述の和央さん!)のつけた新聞記事からでした。新聞記事の写真の中に知人の顔を見つけ、すぐに電話をしていろいろセミナーの説明を聞きました。

夫婦2人ともパソコンを習ってみたいと思っていたときにその記事を見て、ますます「習いたい」という気持ちが強くなっていきました。

早速、プロップへ電話をかけ、「主婦でもいいですか?」と聞いたところ、これはOK!ということだったので、「定員オーバーで9月からになります」とのお返事でした。

しばらくして、「1人来られなくなったので、どうですか?」という連絡を受けたときには、うれしくって、うれしくって……。

いざ、参加してみると、私が考えていた以上に初めてづくしのことばかり。内容もむずかしいし、なかなか思うように手も頭もついていかない。でも、ボランティアの人たちの熱意を感じ、「こんなことぐらいでは負けられない!」とガンバッテいます。

私がガンバッテているのを見てか、主人も早くしたかったのか、一度見学に来たのがきっかけで、今では二人揃って受講生としてお世話になっています。不安はありますが、最後までガンバローと思っていますので、よろしくお祈りします!

\* \* \* \* \*

\* 久美子さんは明朗快活。和央さんは温和そのもの。おふたりともC.P.で、和央さんは、車椅子を使用されています。毎回、タクシーで通って来られるお似合いのカップルです!

受講生 4人目 \* \_ \* (#\_#) \* \_ \* (#\_#)

名前: 寺本 和央 (てらもと かずお) さん

オフコン(オフィス・コンピュータ)は、10年やっているが、パソコンは初めてなので、不安があったが、「なんとかなるやろう」と思い、セミナーを見学に行った。

受講生の中に知った顔もちらほら居た。見学に行った日からいきなりパソコンの前に座ってキーボードの操作! 見学のつもりが、幸か不幸か、自分がパソコンに触った。前々からパソコンをやりたいと思っていたところであり、実際に触れてみて「これならやっていけるなあ」と思った。

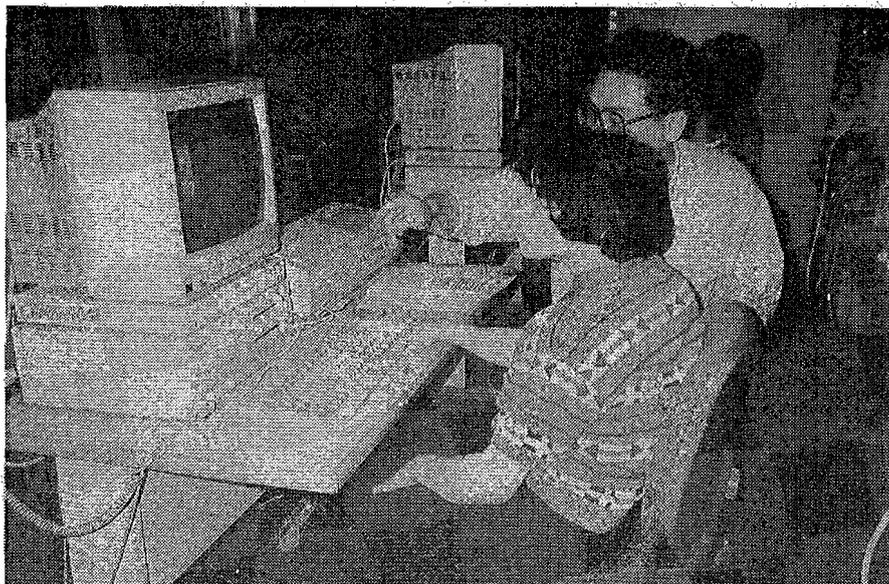
家内の方が先に受講して、私は9月からの予定だったのに、「ご夫婦でどうぞ」と誘われて、「ラッキー!」。幸い6月から会社もパソコンを導入するので、よい時期に受講してよかったと思っている。

横についてくれるインストラクターの人々は毎回変わられ、教え方もさまざま。丁寧にゆっくり教えてくれる人、自分自身でやってしまわれる人(手が速くてついていけない)等いろいろ居て実におもしろい。

パソコンを始めて、パソコンの奥の深さに驚いている。

パソコンをマスターして、将来は製図ができれば、と思っています。もし、会社を辞めることがあっても、コンピュータの仕事をやりたい。パソコンを今から(年齢的に遅いかなあ?)習っておけば何か役に立つのではないかとと思っている。

これからの受講は、だんだんむずかしくなると聞いているので、ついていけるかちょっと不安があるが、セミナー終了まで頑張りたいと思いますので、よろしくお祈りします。



受講生 5人目 \*\_(#\_#)\*\_(#\_#)\*\_\*

名前: 向坂 恭子 (こうさか きょうこ) さん

今回のセミナーを受講して本当によかったと思います。

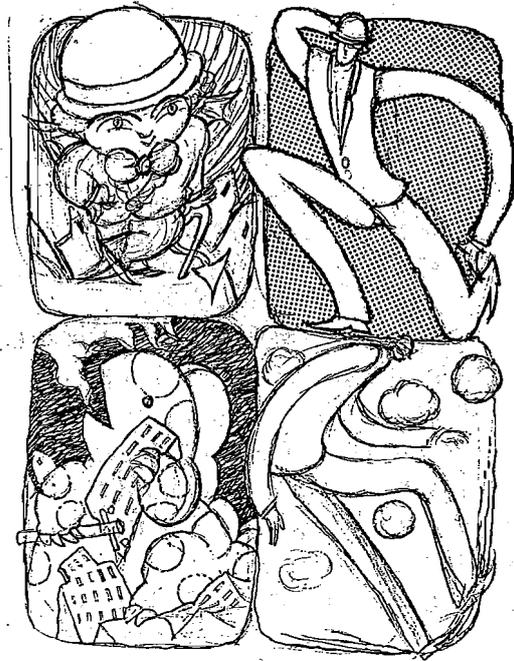
というのは、私は昨年末から仕事上のことや職場の人間関係のことで悩んでおり、ちょうどそんな時にプロップのことを知り、さっそく応募しました。そしてみなさんと巡り会えたことが私を勇気づけ、ともすればやる気をなくしそうになっていた私に、再び希望がわいてきました。

本当は、マックの方を受講したかったのですが(欲張りにも両方を受講したいと申し込んだのです)、すでに定員いっぱいとの連絡を受け、98のコースに入りました。

みんなとても親切に指導して下さるし、先生の方が人数が多いという、こんな贅沢なセミナーはないと思います。おまけに受講料もいららないなんて、なんとありがたいことでしょうか。みなさん方が神様のように見えてきます(ボランティア教会?)。そして、受講生はみんな重い障害をもっているながら、一生懸命がんばって生きている人たちばかりです。私は、自分が障害者でありながら、最近までこういう障害者の方々の中に入ったことがないのです。だから最初、足でコンピュータを操作する方を見て驚きましたが、不自由な手足でも結構コンピュータは扱えるものだということがわかりました。

私のコンピュータ歴は、もう7,8年でしょうか。でも、主にワープロとしてしか使っていません。今でこそ、こんなにコンピュータが出回っていますが、私が障害者になった当時(24年余り前)はワープロも何もありませんでした。もし、あの当時からコンピュータがあつたら、私の人生はもっと変わっていたかもしれません。というのはコンピュータが大好きだし、そのころから勉強していればまだ若かったから、もっと他の仕事に就けたかもしれない。しゃべれなくても、聞こえなくても、ワープロ、ファックス、パソコン通信があるし、キーボードが打てなくてもトラックボールやマウスもある。そういう点でコンピュータというのはまさに障害者のために開発されたものといえるのではないのでしょうか。だから、これを利用して就労に結び付けようとするのは何よりも妥当な考えだと思います。

セミナーが全部終わっても、私はOBとしてずっと参加していきたいし、次回ではできればMacの方を受講したいと思っています。そして自分がお世話になるばかりでなく、何かお役にたてる人間になりたいと思います。



再び、ボランティアさんの紹介です。。。

4人目 \*\_(#\_#)\*\_(#\_#)\*\_\*

氏名: 国本 晃代 (くにもと まさよ) さん

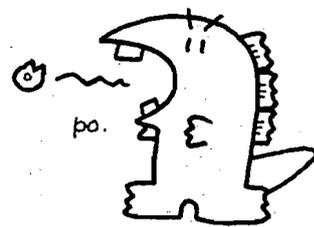
勤務先: (株)ダイナウェア

障害者のみなさんには、キーコマンドの使用を勧めた方がいいように思います。セミナーは少し、空き時間が多いような気がしましたが、受講生の方にはちょうどよいスピードなんでしょうか?

ダイナウェアの社員は、みんな忙しくて用意(サンプル図面、保存用フロッピー、プロテクト、キーコマンドの一覧表コピーなどなど)が十分にできてなくて申し訳ありません。

最後まで、みなさんいっしょにがんばりましょう!

\*セミナーの後、受講生の誰かれを車で駅まで送って下さる、やさしいお嬢さん!



## 5人目

氏名：虎松 宏和（とらまつ ひろかず）さん  
 勤務先：(株)ダイナウェア  
 肩書：建築家 兼 探検家

## その1・CAD講師として・・・

いきなり「講師をやらないか」と言われて早1ヶ月。勉強する方も初めてなら、教える方も初めてです。「まず、何を教えたなら良いんやろ」から始まり、「建築の図面なんか、見てもらってもわかるんやろか」まで、講師するのもチンプンカンプンです。

最初は「こんな半信半疑な気持ちでは無理や」と思い、「でも一度見に来てください」と言われてセミナー会場を覗きに行ったのが運のつき。その数時間後には“CADの先生誕生”とあいなりました。

私のCADとのつき合いは、かれこれ5年位になります。まだ32ビット機が夢の彼方で、16ビット主流の時代。スピードもとろくて、日影計算なんかは夜（11時頃）事務所を出る時、Return Key を押し、翌朝出勤するとなんとか終わっていたというようなことがよくありました(^\_^;)。これで、エラーでも出れば、泣くに泣けません・・・。

そしてバブル時代を迎え、CADは現場、積算部門からどんどん業界に広がっていきました。しかし、設計者という者は結構頭が硬くて、なかなかドラフター（図面を手で描くための道具）がキーボードとかマウスに変わってくれません。特に意匠設計する者にとって、長年慣れ親しんだトレベ（トレーシングペーパー）の上でのデザイン作業

をスクリーンの上でするような頭の切り替えには、まだしばらく時間がかかりそうです。

CADが使えるようになる、ということは単にソフトの機能が使えるだけでなく、建築、機械、電気それぞれの分野の知識も必要です。そういう意味では、決して楽なセミナーではないと思いますが、逆にこれを機にそれぞれの分野に対して興味を広げてもらって、ただCADで図面を描くという世界だけに留まらず、勉強を続けてもらえれば、CADの知識をもっと生活に活かしていけるのではないのでしょうか。

## その2・探検家として・・・中国の話

どうも、この日本社会にいと探検家というのは少数民族で、その肩書だけがやけに一人歩きしてしまう。今の会社に入る前に「どうやら今度、探検家とかいう奴が来るらしい」とのウワサが流れ、まるで当初は怪獣か恐竜のような扱いでした。（確かにそれに近いものではあります・・・）

年に1回とは言わなくても、2～3年に1度くらいは（行きたい人は）探検とか長期ボランティアなんかに参加できるようになり、社会もそういった事を認知してくれば、こんな事もなくなると思いますが。（しかし、そうなるとマスコミもいちいち取り上げてくれなくなって、寄付集めに苦勞するな!）

ところで、中国へ6ヶ月ほど行ってきた訳ですが、何をやってたのかと言いますと、中国の一番奥に位置する「タクラマカン砂漠」という所を、ラクダのキャラバンを引き連れて横断してきたのです。

